

第1回 羅臼湖部会 議事概要

日時：平成23年7月19日(火)18:00～20:00

場所：羅臼ビジターセンター レクチャールーム

1. 開会

①事務局挨拶(三宅)

- ・配布資料確認
- ・出席者自己紹介

②小林昭裕専修大学北海道短期大学教授(オブザーバー参加)挨拶

③会議の名称について(三宅)

- ・事務局より「羅臼湖会合」から「羅臼湖部会」へ名称の変更を提案し、承認される。

2. 議事

(1) 羅臼湖踏査の結果について

(野川) 議事進行

前回3月の会議では羅臼湖の利用のあり方について、皆様に議論して頂いた。本日は歩道をどの様に付替えていくか(ルート)について議論していきたい。まずこれまでの現地踏査の報告を行い、その後、新たなルート案について議論していきたい。

(三宅) 現地踏査結果報告

①第1回踏査 6月14日(資料1-1)

- ・既存ルート、最終展望台の南側および北側のルートを踏査し、付替えルート案を検討。
- ・資料に沿って各ルート案の主な議論内容を説明。

②第2回踏査 6月25日(資料1-2)

- ・冬道の入口から二の沼、三の沼へのルート(3案)を踏査、検討。
- ・資料に沿って各ルート案の主な議論内容を説明。

③第3回踏査 6月28日(資料1-3)

- ・二の沼、三の沼への付替えルート及び、新しい入口の踏査、検討。
- ・資料に沿って各ルート案の主な議論内容を説明。

④第4回踏査 7月19日(資料2-2)

- ・往路で付替えルート①、復路で付替えルート②を踏査、検討。

- ・資料に沿って各ルートにおける廃道と新道を説明、確認。

(2) 歩道付替えルート案について

(三宅) 資料説明

①資料 2-1

- ・2011 年度のスケジュール説明
- ・専門家の紹介

現地踏査：小林委員(専修大学北海道短期大学)

植生調査：内田学芸員(知床博物館)、浅沼氏(羅臼町在住)

ルート選定、植生復元等：佐藤教授(北海学園大学)

②資料 2-2

(三宅) 歩道付替えルート 2 案について説明

付替えルート①

- ・現道の入口～三の沼付近を廃止。
- ・最終展望台木道は南側に付替え。

付替えルート②

- ・現道の入口～二の沼付近は廃止。
- ・三の沼展望台へは迂回路を確保しつつ、三の沼北側は現道のルートを想定。
- ・最終展望台木道は南側に付替え。

(野川)

①ルート 1・2 案の共通項説明

- ・入口を冬道の入口へ変更する。
- ・一の沼は通らない。
- ・侵食が激しい二の沼の階段部分は迂回路を設定する。
- ・三の沼の展望台に至る木道を撤去する。
- ・最終展望台は湿原の縁へ移動させる。

②ルート 1・2 案の相違点

- ・①案は、二の沼を横切るが、三の沼の北側ルートは廃道。
- ・②案は、二の沼は通らず、三の沼の北側ルートを残す。

③ルート設置の基本的な考え方

- ・交通安全上の観点から、冬道の入口を新しい入口として設定したい。
- ・ルート変更は歩きやすくするためではなく、植生保全のために実施する。

意見交換

(湊) ルート①は、入口から斜面を上がっていく形になっているが、土砂や雨の影響を受けにくいよう、沢からピークに上がって尾根を通したほうがよい。湿原を通る三の沼付近の木道の付け方について、きちんと調査をして設置させたほうがよい。

(石田) 付替えルートとして提案されている一～二の沼付近の斜面にツツジやゴゼンタチバナが多い。ガイドとしては、そちらを歩きたいが、植生保護の観点からは問題か？

(野川) 総合的に評価・判断するしかない。ルートを承認後、植生の調査・評価を行って最終的に決定する。

(三宅) 地図上では見にくいかもしれないが、ルートとしては、沢沿いではなく、一段尾根側に上がったルートになっている。斜面の中でも比較的フラットになった部分を選定している。

(石田) そこであれば、雪の問題もクリアでき、植生を楽しめると思う。ガイドとしては、景色の他に林床植物を楽しめる場所がほしい。

(野川) 今のルートは、ある面林床植生があるところを通っている設定。ただ、急な高低も見受けられるので、道の付け方にも工夫が必要だと感じた。

(石田) ルート②だと三の沢までの距離が近すぎる。近すぎると、三の沼への安易な入り込みが増えることが懸念される。

(桜井) 三の沼は、北海道一の景勝とも言われているので、もっと利用者に見てもらうべきだと思う。なぜ、安易な入り込みを避けたがるのか不思議。ハイキングコースではないということを入力で明示し、自分としてはもっとたくさんの人に見てもらいたい。

(三宅) 石田さんのイメージとしては、知床五湖のように多数の利用者がハイヒールなどでも入るようなことは避けなければいけないということだと思う。そのひとつの工夫が距離であるということではないか。

(野川) 整備の水準を上げればあげるほど、どんな人でも入れるようになる。このルートはハイキングのコースではないので、多少入りづらい形にしたりしてそれを示したい。だから沢口を歩かせるのがよいというのが石田さんの意見だと思う。

(石田) 沢はきついと思うが、歩きやすくなって人が増えるということを考えなければいけない。

(湊) ルート②のルート作りは実際にはきつい。森林と湿原のどちらを守るかという話なので、湿原を守るのであれば、樹木の伐採はある程度仕方がない。それから、三の沼の展望台で、実際に羅臼岳がきれいに映る位置はあと 1 メートルくらい北になる。または展望台をもう少し高くしなと今の位置では映らない。

(佐々木) 展望台が昔はもうちょっと高かった。少し沈んだ。

(野川) 付替えルートについて、その他ご意見はないか？

(上野) 湊さんの話にあったが、林野庁の基本的なスタンスとして、決して木を切つていいとは言えないことは理解してほしい。

(湊) 私も切りたくはない。現に切つてルートができているわけなので、現状のルートを補修・矯正して、うまく利用するのが望ましい。

また、入口にも駐車場がなく、一人のお客さんに二人のスタッフが必要。それだけ人件費がかかるので、有料でもいいので駐車場を作ってほしい。Uターンをする場所もない。

(三宅) 安全にUターンができるような何らかのスペースは作りたい。ただ、それが駐車場にはならない。その方向性はこれからも変わらない。

(野川) アクセスという話になるとまたテーマは別になる。

(石見) テーマが別という問題ではなく、総体的にみて将来的にどうするか、という話し合いをしなければいけないと思うが。

(三宅) この話は、アクセスの話、トイレの話、ガイドの話と複雑に絡み合っているので、テーマを分けて話そうということ。

(野川) 今まで頂いたご意見をまとめると、ルート①について、湊さんからは、入口から尾根に近いところに入った方がよい、二の沼の階段部分はより大きく迂回したルートを検討すべき、三の沼に関しては今の展望台の位置では写真撮影は難しいという点と展望台から現道へ戻るルートの植生に配慮するという点について意見をいただいた。石田さんからは入口について、沢の一段上のルートがよいとの意見をいただいた。

ルート②については、三の沼の距離が近すぎる、二の沼の付近はハイマツが多く、道が作りづらいという意見があった。どちらかという、付替えルート①を基本にして、入口から尾根に上がるルートや二の沼階段部分を大きく迂回するルートを考慮するという形になると思う。

特に、皆さんから意見がなければ、案①を中心に、みなさんの補足を加えて調査を行い、また結果を検討するという形にしたい。

(小林) 話しを進めるにあたって大きな骨格の部分となる基本的考え方について、皆で確認する必要がある。ルートを決定するにあたって、条件や検討する事項を確認して進める必要がある。

(野川) こちらの説明不足もあったが、羅臼湖歩道のあり方については前回まででご議論頂き、地元の合意形成はある程度得られ、その上でのルート選定であると考えている。

(湊) 多くの利用者に羅臼湖のすばらしさをもっと伝えたいと思い、我々はかなり以前からアクセス等について要望してきたが、まったく進展がない。

(長谷川) 羅臼湖の保全も大切だが、入口の看板設置やアクセスやトイレの整備等も同じく大切なことであると理解して欲しい。これが解決しないと適正な利用もできない。

(田澤) 今の歩道の付替えには安全なアクセスという要素も入っている。

(三宅) こちらとしても各方面と協力して一つずつ進めていきたいと考えている。その中でまずルートの状態がひどいので付け替えを検討し、それが決まれば次に入口の看板の可能性や駐車帯についても検討していきたいと考えている。

(佐々木) ルート①案の方がよいでは。町民でも補修でき、植生にも人にも優しい、という町の意見書の方針に合致している。最適だと思うので、できれば年内に次の段階へ移ってほしい。

(田澤) 二の沼の木道を残すのはいいが、原道のルートを突っ切ることもないような対策が必要。

(佐々木) ルート①で行くなら、もっと調査が必要。歩きにくい箇所や水で沈下する箇所があるので、さらに調査をしてから決定したほうがよい。

(三宅) 差し支えなければ、基本的にルート①をベースに踏査を行いたい。その際に、皆さんからご意見頂いた点を確認しながら歩きたいと思う。

(小林) 条件を明記していくと、おのずとルート①に決まるので、まず、きっちりと条件を詰める必要がある。外部への説明の為にも重要である。

(野川) 技術的な面もあるため、次回の踏査までに事務局の方で条件を整理しておく。

(山本) ルートを選定するときに、利用したお客さんが満足してくれた上で、植生も守ることが必要だと思う。地元関係者ときちんと合意形成をしながら進めてほしい。一飛びに決めているような気がする。9月という期限もある。

(三宅) 植生面の保護の為に観光を無視しているわけではない。9月というのはあくまで予定で、合意形成の過程でずれ込むのは仕方がないと考えている。早く決めれば、早く補修に入れ、早く利用に入れる。

(梶岡) 全体的な合意形成をした後、ルートの詳細検討ができる。今回は全体の話。

(小林) 利用者に見せたい箇所があるなら挙げて欲しい。それをルートの詳細検討に入れていけばよい。

(三宅) 今後の予定としては、あと3回程度踏査を行い、9月くらいに概ねルートを決定したいが、今後もっと現地踏査を行った方が良いのか、それとも議論の場を設けた方が良いのか、皆さんのご意見を伺いたい。

(小林) 意見がぶつかるころは、現場で議論を行えばよい。なぜ踏査に行くのか、調査を行わなければならない場所はどこか、それらを整理して現地踏査を行うべき。

(佐々木) これまで4回現地踏査に入っている。その全てを把握して、いろいろな意見をどのように調整するかを考えながら現地を歩かなければいけない。今はもう決める段階にあり、後戻りはできない。今の状況を打開するためにも、秋までにルートを決め、合意を得て、羅臼としてこう決めたいと言いたい。

あと、我々は素人だから、現地を見てもなかなかわからないことが多い。そのため、植生の専門家も一緒に現地で歩いて欲しい。

最終展望台の付替えルートについて、より五の沼側から最終展望台に直線で接続させるルートも検討する必要がある。

(三宅) 植生調査については、専門家に依頼して実施する予定。

(石田) その地域の植生がなぜ大事なのか等、実際に調査しながら、専門家にその根拠を納得できるよう教えて欲しい。また、三の沼の展望デッキに至る木道については、植生に影響のない範囲で枝道や休憩スペースとして、展望デッキ側の一部を残して欲しい。

(本間) 互いにできないではなく、皆でできて納得のゆく方向を考えていく必要がある。

(石見) 植生や動物も大事だが、人間の生活が一番大事。自然が大事ということも理解できるが、そのへんをもっと明確に示してもらえれば、もっと話がスムーズに進むと思う。

(田澤) 調査に入る前に、いろいろな条件を示してもらえれば、細部の検討もしやすくなる。

(三宅) それでは7月29日の現地踏査については予定通り実施し、その後、植物調査を実施して、8月の踏査の前にその結果を皆様に報告するというところでよろしいか？

(田澤) 植生調査は早めに実施可能か？

(三宅) 可能である。

(野川) これまでの話を整理する。

1. ルートについては、付替えルート①を中心にして進めてゆく。

(検討項目)

- ・ 入口から二の沼までのルートについて
- ・ 二の沼階段部分の迂回ルートについて
- ・ 二の沼の雪原植生の観察形態について
- ・ 三の沼の展望台について
- ・ 三の沼から現道へ至るルートの植生への影響確認について ・ 最終展望台へ至るルートについて

2. 次回踏査までに歩道付け替えにあたっての基本的な条件の整理を行う。

3. 植生調査の実施時期を早める。また、今後の現地踏査に植生の専門家にも同行してもらうことを検討する。

(須藤) 付け替えルート①の入口の位置は、すでに確定しているのか？

(三宅) まだ確定はしていない。

(須藤) 現地での場所を教えてもらえれば、その位置で開発局として何ができるのかが見えてくる。ここでの停車帯というのは、バス停車帯も兼ねるという理解でよいのか。

(三宅) それでよい。

(野川) 谷側にバス停車帯を設置するというのは可能なのか？バリエーションをいくつか考えて頂けるとありがたい。

(須藤) ひとまずバス停車帯について確認する。イメージとしては両車線にバス停車帯が設置できればよいというイメージでよいのか。

(野川) それでよい。

(小林) 利用者のキャパシティの問題があるので、次回以降検討が必要。キャパシティを上げると議論すべき問題が増えてくる。それらを踏まえた上で、次回以降、皆でキャパシティについて議論して頂きたい。

(野川) 利用者については現状程度を想定していたが、次回もう一度確認を行う。

(3) その他

① 二の沼階段部分の土砂流入防止対策について

(三宅) 資料内容について説明

- ・ 付け替えルートが早めに開設できれば階段部分の通行を止めてしまい、土砂流入対策を行う。現道のままであれば、対策を実施しながら、その上を利用者に通行してもらうことになる。

② アンケート調査の実施について

(三宅) アンケート内容について説明。

- ・ 環境省の事業として配布し、部数は 200 部を予定。
- ・ できればガイド協議会に配布を協力して頂きたい。

(小林) 200 部だと単純集計しか使えず、クロス集計には使えないので注意が必要。

(須藤) 添付の参考資料はどういう位置づけか？

(野川)本資料は羅臼湖の利用のあり方を考える上で核となるもの。羅臼町遺産協議会で議論して、地域の総意として提案頂いたもの。

(須藤)確定版として考えてよいのか。

(遠嶋)構わない。羅臼町世界遺産協議会の考えであって、羅臼町の方針である。

3. 閉会

以上